

2018年3月期 第2四半期 業績概要

橋本 裕一
アンリツ株式会社
代表取締役社長 グループCEO

2017年10月31日



東証第1部：6754
<https://www.anritsu.com>

Anritsu
envision : ensure

(ノート部記載なし)

注 記

本資料に記載されている、アンリツの現在の計画、戦略、確信などのうち、歴史的事実でないものは将来の業績等に関する見通しであり、リスクや不確実な要因を含んでおります。将来の業績等に関する見通しは、将来の営業活動や業績に関する説明における「計画」、「戦略」、「確信」、「見通し」、「予測」、「予想」、「可能性」やその類義語を用いたものに限定されるものではありません。実際の業績は、さまざまな要因により、これら見通しとは大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。

実際の業績に影響を与えうる重要な要因は、アンリツの事業領域を取り巻く日本、米州、欧州、アジア等の経済情勢、アンリツの製品、サービスに対する需要動向や競争激化による価格下落圧力、激しい競争にさらされた市場の中でアンリツが引き続き顧客に受け入れられる製品、サービスを提供できる能力、為替レートなどです。

なお、業績に影響を与えうる要因はこれらに限定されるものではありません。また、法令で求められている場合を除き、アンリツは、あらたな情報、将来の事象により、将来の見通しを修正して公表する義務を負うものではありません。

(ノート部記載なし)

目次

I. 事業概要

II. 2018年3月期第2四半期 連結決算概要

III. 2018年3月期 通期業績予想（連結）

IV. PQA事業のソリューションの紹介

（ノート部記載なし）

I. 事業概要

T&M事業
開発・製造・建設・保守用



- ▶ モバイル市場 : LTE, 3G
- ▶ ネットワーク・インフラ市場 : 有線・無線NW
- ▶ エレクトロニクス市場 : 電子部品、無線設備

PQA事業

- ▶ 食の安全・安心
- ▶ X線異物検出機
- ▶ 重量選別機



その他

- ▶ IPネットワーク機器
- ▶ 光デバイス



(セグメント別売上比率) 2017年3月期 実績(連結) : 876億円

T&M 68%			PQA 22%	その他 10%
モバイル 45%	ネットワーク・インフラ 35%	エレクトロニクス 20%		

(T&M事業 地域別売上比率)

日本 18%	アジア、パシフィック 37%	米州 27%	EMEA 18%
-----------	-------------------	-----------	-------------

T&M: Test & Measurement PQA : Products Quality Assurance

(ノート部記載なし)

Ⅱ - 1. 連結決算概要 - 業績サマリー

▶ 当期利益黒字化

(単位：億円)

国際会計基準(IFRS)	前第2四半期 連結累計期間 (4-9月)実績	当第2四半期 連結累計期間 (4-9月)実績	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率(%)
受注高	417	427	10	2%
売上高	412	407	△5	△1%
営業利益	9	6	△3	△34%
税引前利益	1	5	4	752%
当期利益	△1	2	3	-
当期包括利益	△32	12	44	-

(注) 値はそれぞれの欄で四捨五入

グループ全体の受注高は前年同期比2%増の427億円、売上高は前年同期比1%減の407億円となりました。営業利益は前年同期比34%減の6億円となりました。

当期利益は2億円、当期包括利益は12億円となりました。

II - 2. 連結決算概要 - 事業別売上高・営業利益 -

➡ T&M (米国) でリストラを実施

➡ PQAは増収・増益

(単位：億円)

国際会計基準(IFRS)		前第2四半期 連結累計期間 (4-9月)実績	当第2四半期 連結累計期間 (4-9月)実績	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率(%)
T&M	売上高	285	264	△ 21	△ 7%
	営業利益	5	△ 6	△ 11	-
	(調整後営業利益)	(6)	(△ 3)*	(△ 9)	-
PQA	売上高	92	107	15	16%
	営業利益	5	9	4	76%
その他 (含：内部消去)	売上高	35	36	1	3%
	営業利益	△ 1	2	3	-
合計	売上高	412	407	△ 5	△ 1%
	営業利益	9	6	△ 3	△ 34%
	(調整後営業利益)	(10)	(8)	(△ 2)	(△ 18%)

(注) 値はそれぞれの欄で四捨五入

*T&M調整後営業利益は、米国でのリストラ費用2億円を控除した数値です。

T&M: Test & Measurement PQA: Products Quality Assurance

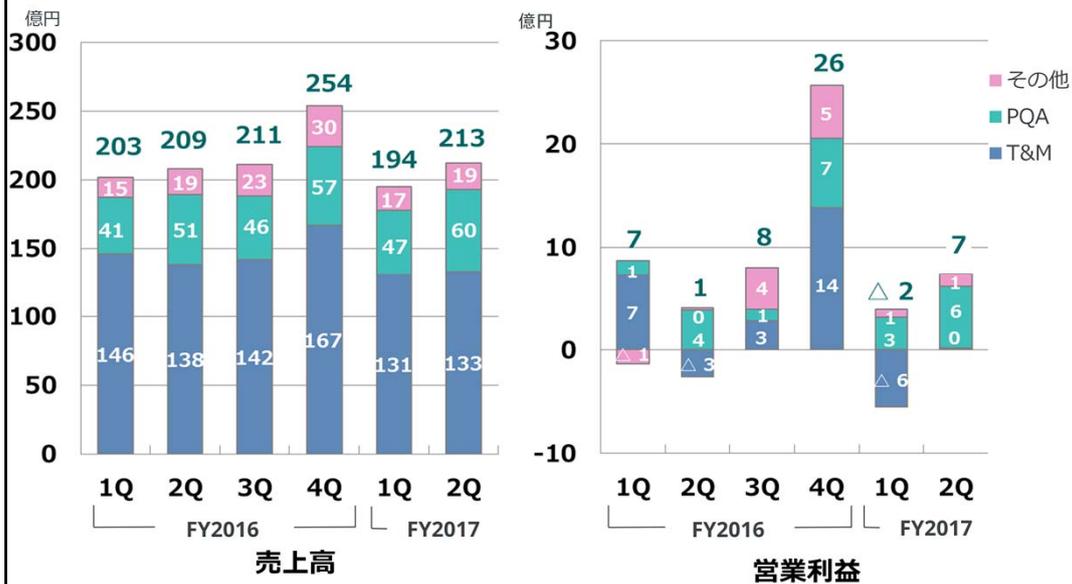
T&M事業は減収減益となり、営業利益は△6億円となりました。

PQA事業は増収増益となり、営業利益は9億円(営業利益率: 8.5%)となりました。

*調整後営業利益: 営業利益から一過性の性格を持つ損益項目を排除した恒常的な事業の業績を測る当社独自の利益指標。PQA, その他は調整項目なし。

Ⅱ - 3. 連結決算概要 - 四半期毎 売上高・営業利益 -

▶ 第2四半期のT&Mは黒字化（調整後営業利益2億円）



(注) 値はそれぞれの欄で四捨五入

第2四半期の連結及び各事業セグメントの営業利益、営業利益率は下記のとおりです。

連結	7億円(営業利益率:3.5%)
T&M	0億円(営業利益率:0.0%)
PQA	6億円(営業利益率:9.9%)

II - 4. 事業別営業概況

セグメント		2018年3月期第2四半期（4月-9月）の状況
<p>➡ T&M：スマホ関連市場の投資抑制は更に続く</p>		
モバイル	LTE-Advanced	LTE-Advanced Proへの投資が顕在化
	5G, IoT, Connectivity	オートモーティブ・5G / IoTの開発案件が具体化
NW	光デジタル関連への設備投資は堅調	
アジア	スマホ製造市場全体の成長鈍化で投資抑制	
米州	北米オペレータの基地局関連投資が縮小	
<p>➡ PQA：国内・海外とも食品メーカーの投資意欲が旺盛に推移</p>		

T&M: Test & Measurement

NW: Network Infrastructure

PQA: Products Quality Assurance

Anritsu envision:ensure

8

Financial Results FY2017Q2
Copyright© ANRITSU CORPORATION

T&M事業は、ワイヤレス計測市場で、顧客の投資姿勢に一段と厳しさがみられます。

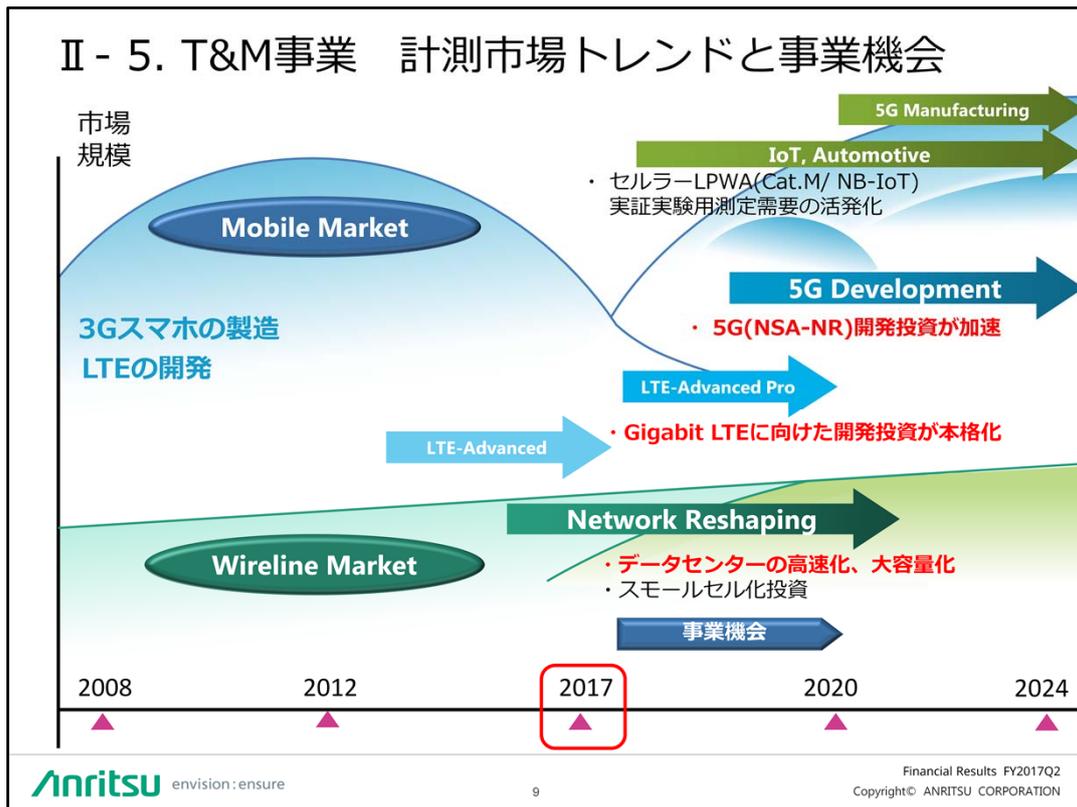
LTE-Advanced関連のR&D市場は下降トレンドにありますが、CA(Carrier Aggregation)の高度化やLTE-Advancedを拡張させたLTE-Advanced Pro(Gigabit LTE)のサービス開始計画が顕在化してきました。

また、オートモーティブ市場やセルラーIoT分野の開発案件および5G商用化に向けた動きは具体化しつつあります。

データセンター関連の高速化投資は活発化しており、光モジュール開発・製造用の計測器の需要が堅調に推移しています。

一方で、基地局建設保守市場では、オペレータの設備投資が減少しています。

PQA事業は、国内・海外とも食品メーカーの投資意欲が旺盛で、X線検査機の需要が、全ての地域で堅調に伸びています。



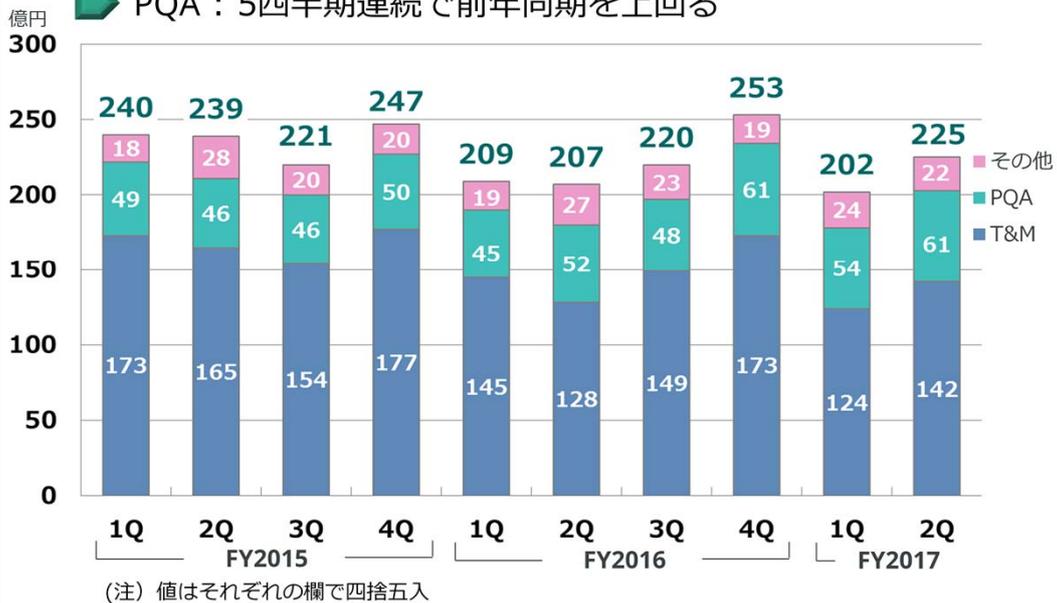
営業概況のとおり、T&M事業の事業環境は、スマートフォン関連市場の投資抑制が、継続しています。

一方で、3GPPの5G標準化前倒しで、各国キャリアの2019年の商用化に向けた動きが具体化しています。3GPPの5Gの標準化は、NSA-NR用とSA-NR用の2段階となっており、2つの異なるロードマップによる需要サイクルが予想されます。加えて、LTE-Advancedの拡張規格であるLTE-Advanced Pro開発用測定器の需要が顕在化してきました。LTE-Advanced Pro は3GPPの「リリース13」以降で規定され、2020年以降も、5Gとの併用が見込まれます。「Network Reshaping」関連市場は、データセンターの高速化、大容量化実現のための光モジュール評価用ソリューションの需要が堅調です。100Gbpsの光モジュール製造用測定需要と、さらなる高速化の実現に向けた400Gbpsの光モジュール開発用測定需要が堅調です。

II - 6. 受注高推移

➡ T&M：第1四半期より増加も、前上期比では減少

➡ PQA：5四半期連続で前年同期を上回る



Anritsu envision:ensure

10

Financial Results FY2017Q2
Copyright © ANRITSU CORPORATION

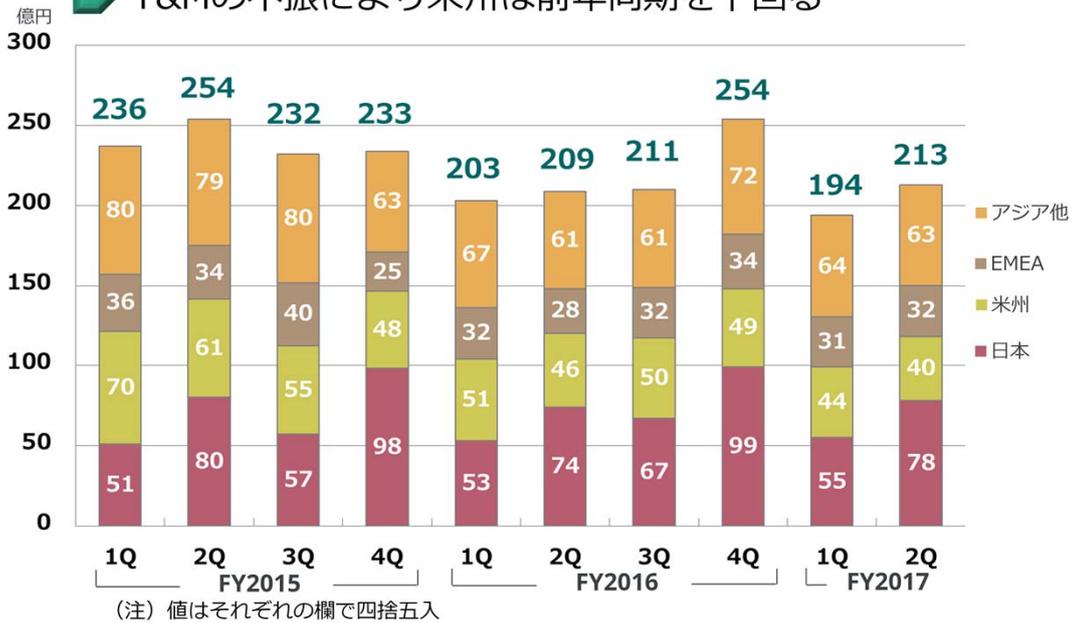
T&M事業の第2四半期受注高は、モバイル計測ソリューションなど、様々な用途での測定需要を取り込むことで、前年同期比11%増の142億円となりましたが、上期としては前年同期比3%減の266億円でした。

PQA事業の第2四半期受注高は、前年同期比17%増の61億円で、継続的に成長しています。

なお、受注残高はグループ全体で202億円(前年同期比17%増)、T&M事業では134億円(同18%増)、PQA事業では50億円(同29%増)でした。

Ⅱ - 7. 地域別売上高推移

➡ T&Mの不振により米州は前年同期を下回る



日本市場は前年同期比5%、EMEA市場は15%、アジア市場は3%、それぞれ増収となり、米州市場はT&Mの不振により前年同期比12%減収となりました。

Ⅲ. 2018年3月期 通期業績予想（連結）

➡ 4月27日公表値のとおり

（単位：億円）

		2017/3期	2018/3期		
		前期実績	通期予想	前期比 増減額	前期比 増減率(%)
売上高		876	910	34	4%
営業利益		42	44	2	4%
税引前利益		36	42	6	16%
当期利益		27	30	3	10%
T&M	売上高	593	610	17	3%
	営業利益	21	22	1	3%
PQA	売上高	196	215	19	10%
	営業利益	13	15	2	15%
その他 (含：内部消去)	売上高	87	85	△ 2	△ 2%
	営業利益	8	7	△ 1	△ 13%

（注）値はそれぞれの欄で四捨五入

（参考）FY16為替レート : 1米ドル108円、1ユーロ=119円
 FY17期初想定為替レート : 1米ドル110円、1ユーロ=120円
 FY17下期想定為替レート : 1米ドル110円、1ユーロ=130円

2018年3月期の通期業績の見通しは4月27日の公表値から変更はありません。

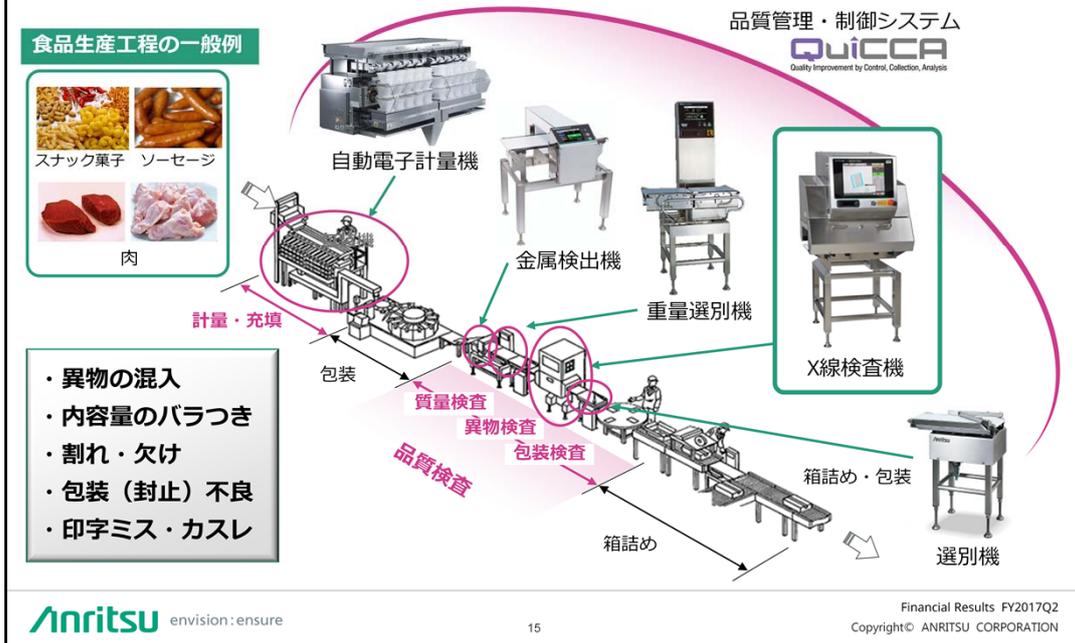
IV. PQA事業の ソリューションの紹介

アンリツ株式会社
執行役員
PQA事業グループプレジデント
新美 眞澄

(ノート部記載なし)

IV-1. PQA事業のソリューション

品質保証のパートナーとして、お客様の品質保証の課題解決に挑戦



PQA(Products Quality Assurance)事業のソリューションについて説明します。

スーパーやコンビニエンスストアなどで販売されている包装済食品の多くは、食品工場
で、ベルトコンベアの上を1分間に何十個という猛スピードで運ばれながら加工されて
います。PQAの製品はこのような生産ラインのなかで、これまで人が行っていた品質検
査を自動化することにより、生産性と品質の向上に貢献します。

IV-2. X線検査機の紹介

X線検査機は、高性能センシングと高度な画像解析を基本技術として、さらには深層学習などの人工知能処理とも組み合わせて、より高度な品質保証ソリューションとして進化していきます。

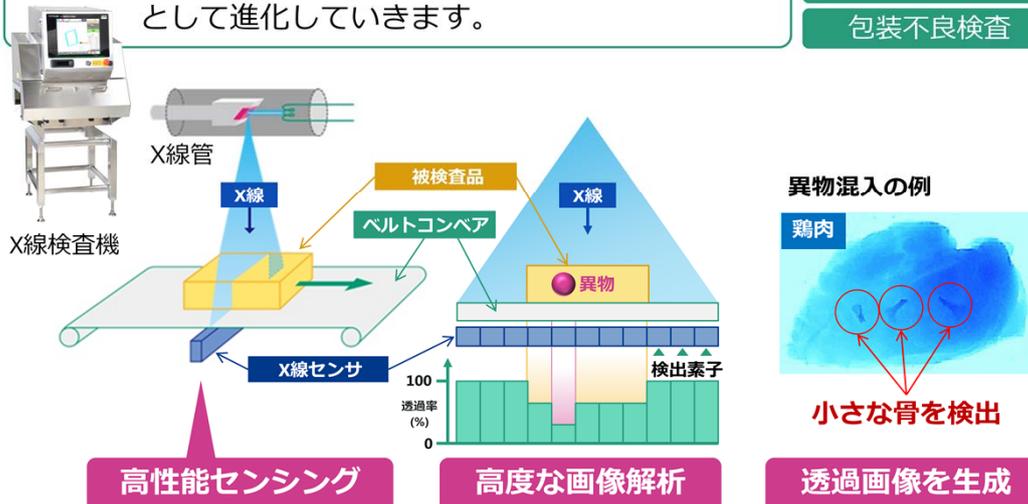
－ 用途 －

異物混入検査

形状不良検査

包装後の欠品チェック

包装不良検査



Anritsu envision:ensure

16

Financial Results FY2017Q2
Copyright© ANRITSU CORPORATION

X線検査機は、対象物を透過した画像を分析して異物混入、個数や形状、包装不良などの品質を検査する装置です。

国際的な衛生管理手法であるHACCP(Hazard Analysis and Critical Control Point)を構築するうえで、重要な設備として、世界的に導入が加速しています。

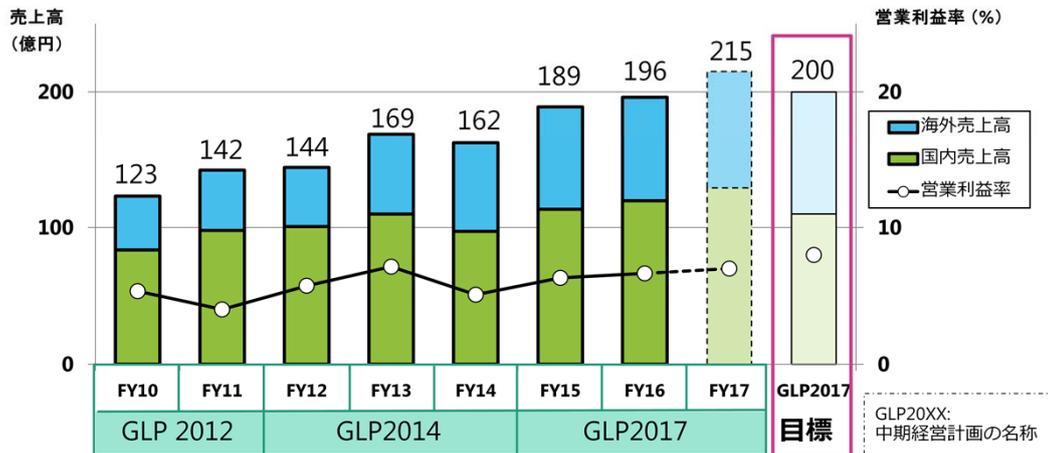
- ①長年追求してきたセンシング技術による優れた検査性能
- ②多様な現場環境に適応する多彩な製品ラインナップとアプリケーション
- ③省エネと長寿命による低い生涯コスト

などの特長を有するアンリツのX線検査機は、お客様から高い評価をいただいています。

IV-3. PQA事業のビジョンと業績推移

ワールドクラスの品質保証ソリューションパートナー の地位を確立し
2020年度 売上高 250億円 営業利益率 12% を目指す

<PQA事業売上高と営業利益>



食品・医薬品の包装工程における品質保証にこだわり、「品質保証を追求した商品」と「質の高いサービス」の提供を通じて、お客様企業と共創・発展することで、「ワールドクラスの品質保証ソリューションパートナー」の地位を確立します。

品質保証の新たなる挑戦を、お客さまとともに。



食品・医薬品分野で培ってきた高度な技術力と知見を礎とし、品質保証の限りない可能性を追求します。

だから私たちは、検査テクノロジーを開発し磨きつづけます。
だから私たちは、検査プロセスの新たな価値を提案しつづけます。

いつの時代も、お客さまの、安全と安心の“ものづくり”を支える確かなパートナーでありたい。

同じ目的地まで、私たちが一緒します。

ANRITSU INFIVIS



Anritsu envision:ensure

18

Financial Results FY2017Q2
Copyright© ANRITSU CORPORATION

品質保証の新たなる挑戦を、お客さまとともに。

食品・医薬品分野で培ってきた高度な技術力と知見を礎とし、品質保証の限りない可能性を追求します。

だから私たちは、検査テクノロジーを開発し磨きつづけます。
だから私たちは、検査プロセスの新たな価値を提案しつづけます。

いつの時代も、お客さまの、安全と安心の“ものづくり”を支える確かなパートナーでありたい。

同じ目的地まで、私たちが一緒します。



(ノート部記載なし)